

売上横ばいもコスト増で採算やや悪化、賃上げ負担が重石に 第182回中小企業景況調査(10月～12月期)

今回調査では、売上DIは横ばいで推移したものの、採算DIはやや悪化を示し、業況DIは横ばいとなった。売上が伸び悩む中で、10月に実施された過去最大幅の最低賃金引き上げに伴う人件費の増加が、中小企業の収益を大きく圧迫している状況が浮き彫りとなった。また、為替相場や、高止まりする原材料価格・エネルギーコストの影響により、多くの業種で採算確保が困難な状況が続いている。

業種別では、年末商戦に向けた小売業やサービス業で明るい兆しが見られる一方、製造業や建設業では海外経済の減速懸念や構造的な人手不足により、景況感の悪化が目立つ二極化の様相を呈している。

輸出停滞とコスト高で大幅悪化

来期も低迷続く見通し

製造業

製造業の今期売上DIは、△13.3(前回△5.4)と大幅な悪化を示し、業況DIは△23.3(前回△8.1)とやや悪化した。来期の見通しは、売上DIが△23.3(前回△21.6)と横ばい、業況DIは△10.0(前回8.1)と大幅な悪化を見込んでいる。今期は、海外経済の減速に伴う輸出需要の停滞に加え、原材料価格の高止まりが続ぎ、売上が大きく落ち込んだ。来期についても、米
国経済の不透明感や為替変動のリスクが払拭できず、業況感の悪化が避けられない見通しである。

資材高・人手不足で停滞感強く

来期も厳しい状況続く

建設業

建設業の今期売上DIは△23.3(前回△14.8)とやや悪化し、業況DIは△10.0(前回△7.4)と横ばいであった。

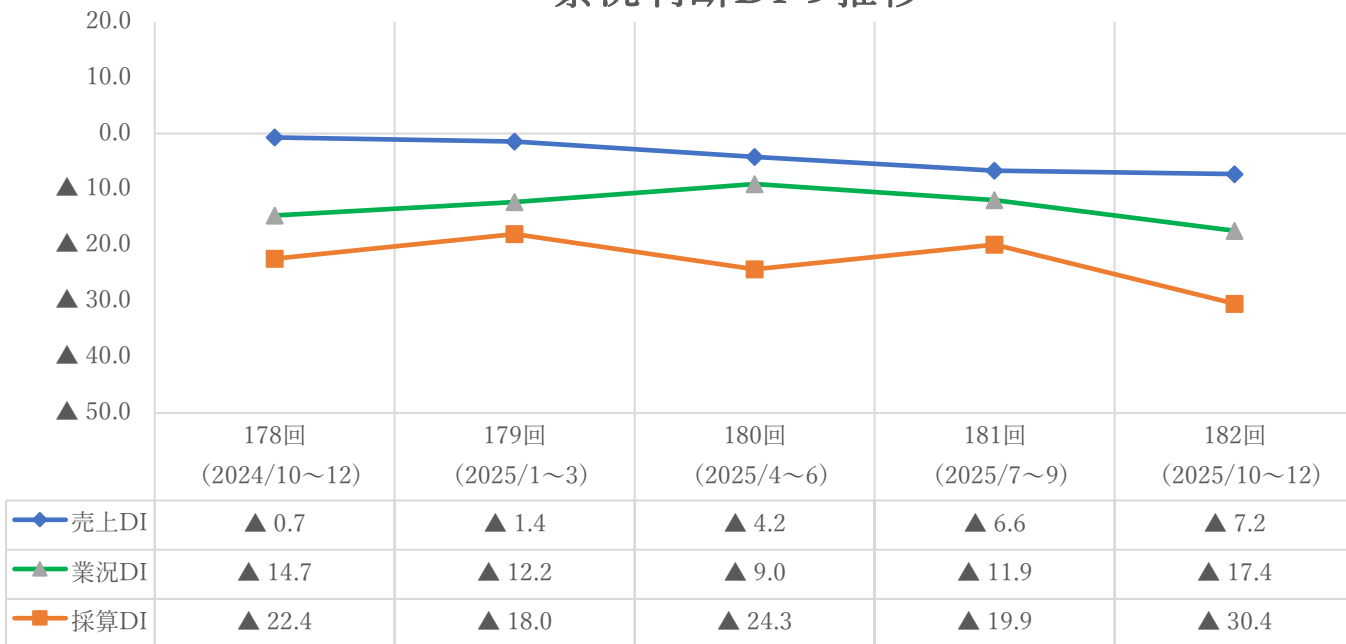
来期の見通しは、売上DIが△36.6(前回△22.2)とやや悪化し、業況DIは△10.0(前回△7.4)と横ばいを見込んでいる。資材価格の高騰による建築コストの上昇が必要を冷やしており、民間住宅工事を中心に受注の先送りが見られるが、来期の業況感には横ばいが見込まれる。

価格転嫁進み業況はやや改善 仕入高止まりで来期は横ばい

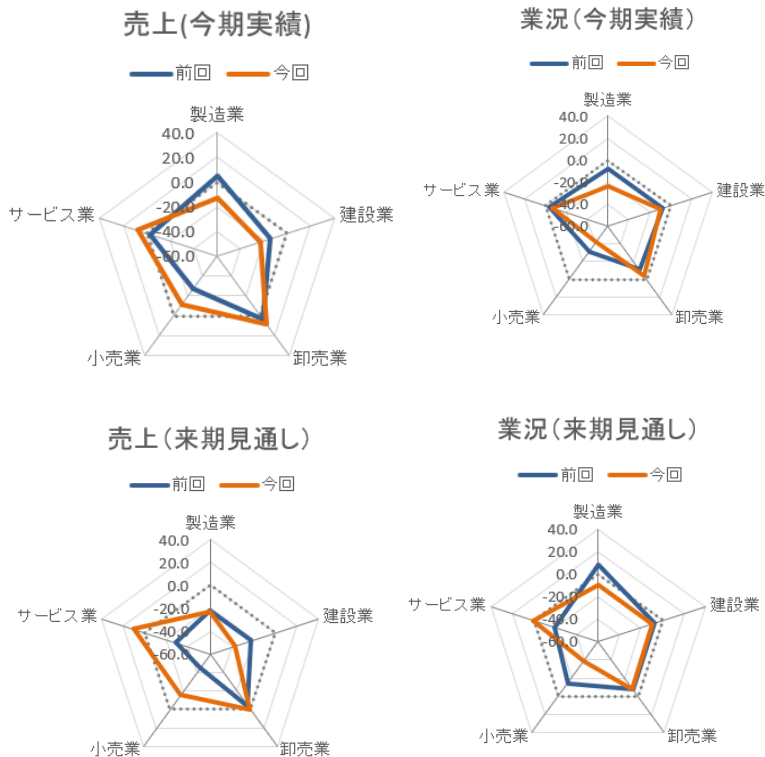
卸売業

卸売業の今期売上DIは8.4(前回3.7)と横ばいで推移し、業況DIは△4.1(前回△11.1)とやや改善した。来期の見通しは、売上DIが0.0(前回△3.7)と横ばい、業況DIは△8.3(前回△7.4)と横ばいを見込んでいる。価格転嫁が徐々に浸透してきたことで、業況感にはプラス圏を維持している。しかし、円安による輸入品価格の上昇や物流費の増加が続いており、採算は改善していない状況が続いている。

景況判断DIの推移



DI 値 (景況判断指数) = (増加・好転の回答割合) - (減少・悪化の回答割合)



前回調査比	売上		業況	
	今期実績	来期見通し	今期実績	来期見通し
製造業	↓	→	↘	↓
建設業	↘	↘	→	→
卸売業	→	→	↗	→
小売業	↑	↑	↘	↓
サービス業	↗	↑	→	↑

凡例

~-16	-15~-6	±5	+6~15	+16~
↓	↘	→	↗	↑
大きく減少 悪化	やや減少 悪化	横ばい	やや増加 好転	大きく増加 好転

**売上 年末需要への期待で大幅改善
客足戻るも収益確保が課題 小売業**

小売業の今期売上DIは△11.5(前回△27.6)と大幅な改善を示し、業況DIは△42.3(前回△31.0)とやや悪化した。来期の見通しは、売上DIが△15.3(前回△44.8)と大幅な改善、業況DIは△38.4(前回△13.8)と大幅な悪化を見込んでいる。行楽シーズンの合わせた人流の回復が見られたことで、来店客数が持ち直している。また、年末商戦に向けた購買意欲の高まりも、景況感の改善に寄与している。一方で、人件費増や仕入高による物価高は依然として根強く、収益の確保が引き続き課題となる。

**忘年会需要などでやや改善
人件費上昇も価格転嫁が進む**

サービス業

サービス業の今期売上DIは7.2(前回△3.2)とやや改善し、業況DIは△7.1(前回△3.2)と横ばいであった。来期の見通しは、売上DIが10.8(前回△29.0)と大幅な改善、業況DIは0.0(前回△19.4)と大幅な改善を見込んでいる。行楽シーズンや年末シーズンの到来により、飲食・宿泊業を中心に改善した。また、サービス価格への転嫁がある程度浸透し始めたことも、売上DIを押し上げた要因である。来期は、新年会や春の歓送迎会シーズンを控え、個人消費や宴会需要の盛り上がりにより大きな期待が寄せられている。

事業者からの声

・働き方改革の見直しを求めます。一時的に稼ぎたい従業員がいても、総量規制のように、休日を取得しなければならぬため、個人の事情を考慮すべき。

(産業機械・製造業)

・民間のリフォーム・改修工事が多く発注されていますが、職人不足の為に工事に遅延が発生している。

(建築・建設業)

・賃金の上昇ペースが異常である。

(複合機・卸売業)

・生活必需品の高騰により財布のヒモが厳しくなり、高額な商品が出づらくなった。代わりに比較的安価な商品が出るようになった。

(ペット・小売業)

・人材不足で募集しても応募が無い為、採用できない。人件費の増加・原材料費・水道光熱費増加分を吸収出来ない。

(物産・飲食業)

・実質賃金低下によって、景気はあまり良くない。当館の常連客は減少傾向。新規客の獲得に注力してなんとかうまくいっている。

(旅館・宿泊業)